

令和元年度

病害虫発生予察特殊報(第3号)

令和元年10月1日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：ケイトウピシウム立枯病（新称）
病原菌名：*Pythium aphanidermatum*(Edson)Fitzpatrik
作物名：ケイトウ

1 発生経過

- 平成29年8月に、県内の鉢物生産者から当所普及指導部を通じて、鉢物ケイトウで根が変色・腐敗し、主茎地際部が黒褐変するとともに、地上部が激しく萎凋し、立ち枯れる障害の診断依頼があった。
- 当所生産環境部および法政大学植物医科学センターによる接種試験、病原菌の形態観察および遺伝子解析の結果から病原菌を *Pythium aphanidermatum* と同定した。
- Pythium* 属菌によるケイトウの病害は、本邦では初発生である。

2 病徴および発生生態

- 病徴として、根が褐変、水浸状に腐敗し、主茎地際部が黒褐変し、激しく萎凋する。株は立枯れ、倒伏枯死する。
- 病原菌は、コーンミール寒天培地上では15～40℃の範囲で生育可能であり、生育適温は38℃である。
- 耐久生存のため卵胞子を形成し、土壌中で長期間生存できる。
- 土壌伝染のほか水媒伝染により感染が拡大する。
- Pythium aphanidermatum* は多犯性であり、18科36種の植物において感染が報告されている（植物病理学会 日本植物病名目録、2019年5月31日現在）。

3 防除対策

- 汚染の心配がある土壌は必ず土壌消毒を行う。
- 育苗培土の連続使用を避け、連続使用する場合は土壌消毒を行う。
- 水媒伝染を避けるために露地栽培では高畝にしたり、透水性や排水性を改善し雨水が停滞しないようにする。
- 未熟な有機物の土壌施用を控える。
- 施設内が高温・多湿にならないよう、換気等で調節する。
- 発病株を確認したら速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

(写真)



図 病徴 (A: 地際部の黒褐変をともなった萎凋症状, B: 地際部黒褐変, C: 発生地における被害状況)

神奈川県農業技術センター 病虫害防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>